

2017年11月 経営概況説明会 質疑応答要旨

日時	2017年11月15日 15:00~16:30
場所	三井化学本社内会議室
説明者・応対者	代表取締役 社長執行役員 (CEO) 淡輪 敏 代表取締役 副社長執行役員 (CFO) 久保 雅晴 代表取締役 専務執行役員 (CTO) 諫山 滋
説明資料	2017年11月15日掲載 経営概況説明会 資料

Q&A

■モビリティセグメント

Q1. PPコンパウンド事業拡大の進捗状況について説明してほしい。

A1. PPコンパウンドはシェアの低い欧州での拡大を図っています。今後自社拠点の設立を検討していますが、販売が好調のため、早期に拠点候補を絞り込み、供給体制を構築していく予定です。

Q2. PPコンパウンドについて、ガラス繊維や炭素繊維を用いた樹脂強度向上のトレンド、及びEV化の進展を踏まえた成長の方向性について説明してほしい。

A2. 繊維による強度向上については、コスト等の観点も踏まえると、ガラス繊維が主流になると考えています。但し樹脂で金属並みの強度を保つ上で、テープ状の炭素繊維を一部補強材に使用する設計がOEMでも進んでおり、それに対応する材料開発を当社でも進めています。またEV化により要求される耐熱性水準が下がることによって、PPコンパウンドの使用拡大の可能性も見込まれます。

Q3. その他EV化に対応した製品開発の取り組みについて説明してほしい。

A3. EV化が進むと電装部品が増加します。電装部品まわりの部材は、現在、金属が主流ですが、当社の金属樹脂一体成型技術により、さらなる軽量化が可能な製品の開発も進めています。

Q4. エラストマー系製品の新增設の検討状況及び意思決定のタイミングについて説明してほしい。

A4. 現在、ルーカント及びタフマーの新增設を計画しています。立地に関しては従来、北米を候補としていましたが、北米において建設費が高騰しており、ルーカントについては立地の見直しも含めて検討の上、今年度中、もしくは来年度の早い段階で意思決定する予定です。またタフマーについては、既存設備のデボトルネックを優先する方向で検討を進めております。

■ヘルスケアセグメント

Q5. 歯科材料事業の現在の状況及びアジア地区事業強化の考え方について説明してほしい。

A5. 歯科材料事業は北米での販売落ち込み、及びデジタル機器の大型化から小型化のトレンドへの対応遅れによって業績が落ち込んでいましたが、北米での販売も回復し、また小型デジタル機器に対応した開発も進んできています。アジアについてはKulzerの販売に占める割合は大きくありませんが、当社は従来よりサンメディカルが日本を中心に事業を展開しており、その他保有するリソースを組み合わせ、アジアでの事業を拡大することによって、欧・米・アジアのバランスのとれた事業展開を図っていきます。

■フード&パッケージングセグメント

Q6. フィルム事業の今後の成長の方向性について説明してほしい。

A6. 産業用フィルムについては、イクロステープを中心に着実に伸びていくと見込んでおり、供給力確保の観点から今回、台湾における設備新設を決定しました。包装フィルムについても需要が堅調であり、特に東南アジアでは中間所得層の増加に伴い需要拡大が見込まれます。

Q7. イクロステープの競合品に対する優位性は何か。

A7. イクロステープは、半導体製造工程においてシリコンウエハの裏面を研削する際、表面の回路を保護するために貼り付けます。微細な回路を保護するため、材料特性の精緻な設計が求められますが、この材料特性は顧客のプロセス条件ごとに微妙に異なっており、これら多様な顧客のニーズにきめ細かく対応できていることが、当社イクロステープの優位性になっています。またイクロステープの品質に問題があった場合は顧客の機会損失に直結するため、徹底した品質管理を行っており、これも高シェアの一因になっていると考えています。

Q8. 農薬は 2022 年度に売上高 1,000 億円を目指しているが、新規 5 原体の開発及び海外展開の状況はどうなっているか。

A8. 新規 5 原体については既に 1 原体を上市しており、現在 2 つ目、3 つ目の登録申請手続きを実施しています。残り 2 剤については登録申請の準備を進めていますが、申請に必要な各国の要求データが厳格化しており、データ対応のために、当初は 2022 年度までに 5 原体の上市完了を計画していましたが、若干後ろ倒しになると見込んでいます。一方、海外展開については投資も進めており、計画通り着実に進展しています。

■ 基盤素材セグメント

Q9. 北米におけるシェール由来のクラッカーの稼働、及び中国の CTO の影響についてどう考えているか。

A9. 北米ではポリエチレンは 3 社が新規に稼働していますが、クラッカーはまだ立ち上がっておらず、全体での供給量は現段階ではまだ増えておりません。クラッカーの稼働は 18 年 1Q~2Q と見ており、影響の本格化は 18 年の年央以降と考えています。但し輸送や詰替えのインフラ・コスト等を考慮すると、実際の影響は定量化が難しい面があります。CTO については引き続き国策として推進されていますが、現状の原油価格では十分な採算がとれる水準ではなく、また環境規制の強化も進んでいるため、需給環境に大きな影響を与える要素ではなくなりつつあると考えています。今後、環境規制も含め、動向を注視して参ります。

Q10. 中国における廃プラスチック輸入規制の影響についてどう考えているか。

A10. 短期的にはバージン樹脂需要を押し上げることになると思われるものの、環境規制等も含め、中長期的にどうなるかは不透明であり、今後注視していきます。

Q11. 基盤素材領域の営業利益水準について、前回の経営概況説明会では 200~300 億円と言及されており、今回 300 億円超となっているが、具体的にどのような進捗があったのか。

A11. 大型市況製品であるフェノール、PTA、TDI の地産地消化が確実に進んでいるのに加え、石化オレフィンチェーンにおけるエチレン自消率及び製品差別化比率の向上により、市況変動の影響が小さくなってきています。外部環境が大きく変化した場合は 300 億円を下回る可能性はありますが、一般的な変動の範囲であれば、300 億円程度の営業利益は確保できると考えています。

Q12. 基盤素材領域の競争力強化の方策として「競争力ある原料確保」とあるが、具体的な内容は何か。

A12. クラッカーについては、現在のナフサに加え、LPG 等、使用可能な原料を多様化し、その時点において相対的に安価な原料を用いて生産することで競争力を確保する等、様々な検討・取り組みを行っています。

Q13. 基盤素材領域では構造改革は一巡したと理解しているが、もう一段階、競争力を強化するコストダウンアイテムはあるか。

A13. 主要製品については構造改革は一巡していますが、用役については地域連携を含めてもう一段の合理化余地があると考えています。

Q14. 基盤素材領域における差別化製品の今後の考え方について説明してほしい。

A14. 基盤素材領域の中にも、エポリユーの他、ハイドロキノン、クレゾール、特殊ガス等の差別化製品があり、今後需要に応じて設備増強を行っていく予定です。

■ 全社

Q15. 18-20 年度の業績見込については今後ローリングし、18 年 5 月に発表するとのことだが、現時点で見込まれる主な増益・リスク要因は何か。

A15. 高機能不織布やイクロステーブ等の設備増強、既に増設しているエポリユーの稼働率向上の他、PP コンパウンドやミラストマー等の需要に応じた供給力確保により、収益の拡大が見込まれます。一方、リスク要因としてはシェール由来のクラッカー稼働が挙げられ、18~19 年にかけて影響が出てくると思われるものの、需要も堅調に伸びており、20 年頃には需給バランスも戻ってくると考えています。

Q16. 特別損失が従来より小さくなってきている理由は何か。

A16. これまで進めてきた構造改革が一巡したことによるものです。現在の特別損失額は、通常の設備除却程度の水準となっています。

Q17. 顧客起点型のビジネスモデルへの転換にあたり、どのような取り組みを行っているか。

A17. 現在、研究開発スタイルを「ファーマー型」から「シェフ型」へ転換すべく、意識改革を図っています。従来、当社は新素材の開発に強みを持つ一方、用途展開については顧客任せとする傾向があり、料理を最終製品に例えた場合、食材の提供までに主眼を置いた「ファーマー型」の研究開発が主流でした。但し現在は顧客のニーズが多様化・高度化しており、顧客の真のニーズを満たすためには、優れたシェフがお客様の嗜好に合わせ、様々な食材や調味料を組み合わせる料理を提供するように、自社材料に加えて他社材も活用しつつ、顧客ニーズを満たすソリューションを提案する「シェフ型」の研究開発が求められます。また、当社と直接取引を行う顧客のみでなく、バリューチェーンの末端にあたる間接的な顧客のニーズも把握し、そこから遡って材料開発に落とし込む等、研究開発スタイルの変革に取り組んでいます。

Q18. 株主還元の方法について説明してほしい。

A18. 今後段階的に総還元性向30%を目指しますが、基本的には継続的・安定的な増配を主軸に考えています。なお、一時的な要因で当期純利益が膨らんだ場合や、株価が当社の考える適正水準よりも低いと判断した場合は、機動的な自社株買いも併せて検討して参ります。

以上